

記入例①

個別の指導計画

想定（小学校3年生 通常の学級在籍）
 *通級による指導を受けていない児童。
 *落ち着いて過ごすことや感情のコントロールに困難さがある。
 *体育の学習が得意。活発で友達とよく遊ぶ。

児童生徒氏名	○ ○ ○ ○	担任名	○○ ○○	更新日	R○年12月20日
年 組	3年 ○組				

年間目標	○ 授業時間において、落ち着いて学習できるようになるとともに、学習した内容をノートにまとめるなど学習に必要な技能を身に付ける。 ○ 先生や友達の助言などを受け入れ、自分の考えを落ち着いて伝えることができる。		
	1 学期	2 学期	3 学期
学期目標	① 授業時間の半分程度、落ち着いて学習し、ノートに書くことができる。 ② 先生や友達の助言などでイライラした際、気持ちを落ち着けて、聞くことができる。	① 授業時間の30分程度、落ち着いて学習し、ノートに収まるように書くことができる。 ② 先生や友達の助言などでイライラした際、気持ちを落ち着けて、聞くことができる。	
指導場面	① 各教科等の授業（国語、算数の時間を中心に） ② 授業時間、休み時間、学校行事（運動会の取組等）	① 各教科等の授業（国語、算数の時間を中心に） ② 授業時間（体育の時間等）、休み時間、学校行事	
指導・支援の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の前半に落ち着いて学習できるように、導入で説明する際、言葉だけでなく絵図などの視覚情報を併せて提示し、落ち着いて取り組む時間を10分程度から目標を持たせ、少しずつ伸ばしていく（伸びを評価する）。 板書の重要事項やポイントを色チョークで囲み、その部分を中心にノート書かせる。 先生や友達の助言で気持ちを落ち着けるために、イラスト等で状況を理解させる。 イライラした際には、少し時間を置いて落ち着くことができるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 30分程度落ち着いて学習できるように、授業の活動を10～15分単位でユニット化し、集中が持続しやすいようにするとともに、タイマーを使って自分で目標の達成が分かるようにする。 板書から焦点化した部分をノートに収められるよう、マス目や枠を使った記入欄を準備する。 イライラしてきた時に自分で気づき、先生や友達に知らせたり、イライラ度を数値化したりして、感情をコントロールできるための力を付けていく。 	
児童生徒の様子・達成度・評価	①：達成度○ 私語が減り、落ち着いて取り組む時間が伸びた（20分程度）。また、ノートに書く部分を焦点化したことは有効だった。目標時間を伸ばしていく。 ②：達成度△ 授業時間は、助言を受けても落ち着いて過ごすことができつつある。運動会の練習においては、自分の意見が通らない場面もあり、イライラしたことがあった。継続的な支援が必要。	①：達成度○ 落ち着いて取り組む時間がさらに伸びた（30分程度）。また、ノートの枠に対し、どれだけ書くか、見通しをもって書けるようになってきた。 ②：達成度○ 体育のドッジボールなどで、イライラしそうになった時、自分から先生に言うことができた。イライラ温度計を使って自分のイライラ度を客観視することで、落ち着くまでの時間が短くなってきた。	

※ 情報管理を徹底すること

記入例②

個別の指導計画

想定（中学校1年生 通常の学級在籍）
 ＊通級による指導を受けていない生徒。
 ＊読むことに困難さがあり、時間がかかる。
 ＊話し合うことに自信がなく、消極的になる。
 ＊音楽や美術が好きで、吹奏楽部に所属している。

児童生徒氏名	○ ○ ○ ○
年 組	1年 ○組
担任名	○○ ○○
更新日	Ｒ○年12月20日

年間目標	○ 読むことの困難さを軽減し、読みやすくするための自分にあったツールの使い方を見つけ、授業中に必要に応じて使うことができる技能を身に付ける。 ○ 友達との話し合いの際に、自分の考えをメモにまとめたり、メモを確認したりする習慣を身に付け、自信をもって学習に参加することができる。		
	1学期	2学期	3学期
学期目標	① 教科書を読むのに、読みやすい方法を試しながら、自分に合う方法を見つけることができる。 ② 学級の友達と自己紹介で好きなことなどの話しやすいことを話すことができる。	① 授業中やテストの際に、自分の読みやすい方法を使いながら、学習を進めることができる。 ② 話し合いの進め方に沿って、自分の考えを発言することができる。	
指導場面	① 各教科等の授業（国・社・数・理・英を中心に） ② 学級活動（入学最初の取組など）	① 各教科等の授業（国・社・数・理・英を中心に） ② 学校行事（合唱祭など）、授業時間（各教科）	
指導・支援の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の時に使用していたリーディングスリットを使いながら、読むのに時間がかかることで、学習内容の理解が遅れないよう、行間を開けたテキストや読み上げ機器などを試し、読みやすい方法を本人と一緒に確認していく。 ・ 入学後すぐの学級で良好な人間関係を築き、心理的な抵抗や不安を軽減できるよう学年組織で取組を実施する。 ・ 話し合いの際にできるだけ見通しをもって話し合いができるよう各教科担任と連携して、UDの視点（シェア）に立った授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期に効果のあった読み上げや大切な個所のマーキングなどを使いながら、テストの際にできるだけ時間内で回答できるよう、テストと同じ形式のプリント等を用いて練習する（他の生徒も同様）。 ・ 学校行事の際に、得意な音楽で活躍の場面を与え、自信をもって友達と関わることができるように取組を進める。 ・ 教科の話し合いの際に、まず自分の考えをメモにまとめ、次に話す順番を決め、自分の話す時にメモを見ながら話してよいルールを各教科で統一して行う。 	
児童生徒の様子・達成度・評価	①：達成度○ 数学などの問題を自分で読んで解く場面では、読み上げ機能を使うことで効果があった。自分自身でも効果を実感し、教科によって自分でスリット等と使い分けできるようになってきた。 ②：達成度△ 自己紹介の取組では、好きな音楽や部活のことを話すことができた。しかし、教科の学習での話し合いでは、自分から発言することは難しい。	①：達成度○ 期末テストの際には、教科によって読み上げ機能を用いて問題を解くことで、中間テストよりも成果が見られた。家庭学習でも、読む困難さを軽減できるよう学校と同じ方法で取り組むことができた。 ②：達成度○ 話し合いメモを活用することで、少しずつ自分の考えを話すことができるようになってきた。合唱祭の取組では練習アイデアを提案できた。	

※ 情報管理を徹底すること